

OPEN!

自ら学びをマネジメントする力をはぐくむ!

やましろ授業スタンダード

～「主体的・対話的で深い学び」の充実のために～

やましろ授業スタンダードをベースにした授業づくり

「出会い」「めあて」から「まとめ」「振り返り」まで一貫した学びへ

I 見通そう	II とらえよう	III はぐくもう	IV 家庭学習 とつなごう
単元・題材を 見直し、授業を つくる・つなぐ	学習者主体の 学びの姿	授業で学び合う 学習集回づくり	授業と家庭学習を つなぐ ～授業を活かす・ 授業に活かす～

児童生徒理解の深化を図り、学ぶことの意義や楽しさと
自己存在感を感じさせ、やましろ未来っ子の資質・能力を育成する

自ら学びをマネジメントする力（自己調整する力）とは・・・

児童生徒自らが

- ①「問い」を見だし、課題を設定する。
- ②その解決に向け最適解・納得解を導き出すための見直しをもつ。
- ③経験したり獲得したりした様々な学習方法等を駆使し、修正しながら学びを進める。
- ④学びを確かなものにし、振り返り、次の学びにつなげる。

「主体的・対話的で深い学び」を充実させた授業や家庭学習など

学びの場で自ら学びをマネジメントする力をはぐくむことが大切です。

京都府山城教育局・山城地方学力向上対策会議

IV 家庭学習
とつなごう

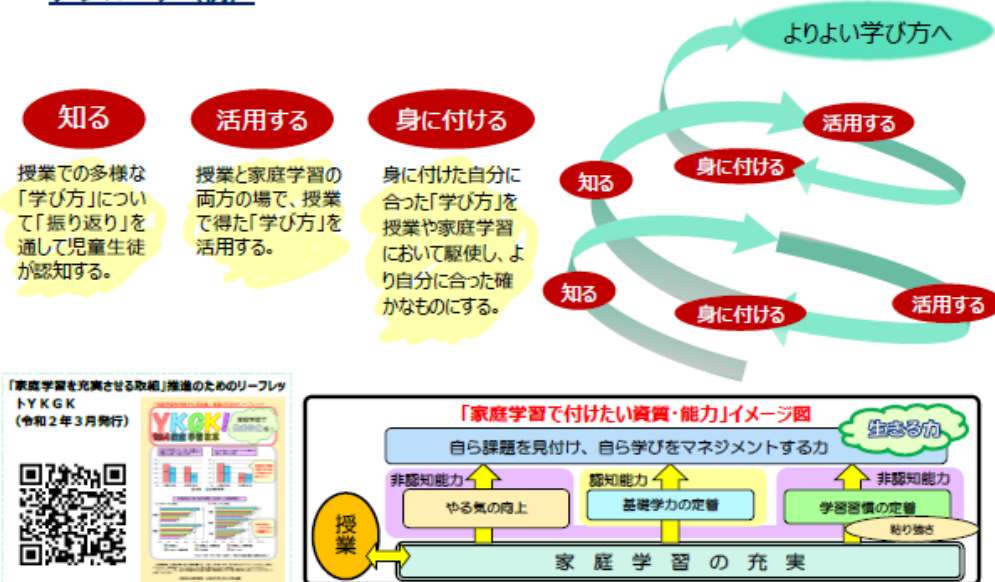
授業と家庭学習をつなぐ

やる気・基礎学力・学習習慣そして「自らマネジメントする力」をはぐくむ

授業と家庭学習を一体的に捉え、授業で身に付けた多様な「学び方」を活かし、課題解決的な学習の活動の中に家庭学習を位置付けたり、授業の振り返りを通して新たな疑問や答えが1つではない問いに気付かせ考えさせたりする等、授業を活かす・授業に活かすことができます。

※詳しくは、「家庭学習を充実させる取組推進のためのリーフレットY K G K」を参照してください。

授業と家庭学習をつなげた「自ら学びをマネジメントする力」の育成のためのアプローチ（例）



参考資料（二次元コード）

国立教育政策研究所
「授業アイデア例」



京都府教育委員会
「学校改善支援プラン」



京都府総合教育センター
「学習指導案ハンドブック」



京都府総合教育センター
「特別支援学校・特別支援学級
（知的障害）学習指導案作成ガイド」



※二次元コードは、令和5年3月現在のものです。情報が変更される可能性があります。御了承ください。

「やましろ授業スタンダード」は、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業を充実するためのエッセンス！
児童生徒の実態や教科・学習課題の特性によって、順序を入れ替えたり、ある部分を焦点化・重点化したり、
往還させたりすることも必要です。また、単元を構想する際にも、活用できます。

活用シリーズ（「導入編」「展開編」「まとめ編」）とあわせて授業づくりに役立ててください。

NAME

令和5年4月発行

「出会い」「めあて」から「まとめ」「振り返り」

これまでの学び（既習事項・家庭学習など）をつなぎ



次の学び（次時・次の単元や題材・家庭学習）などへとつないでいく

まで一貫した学びへ

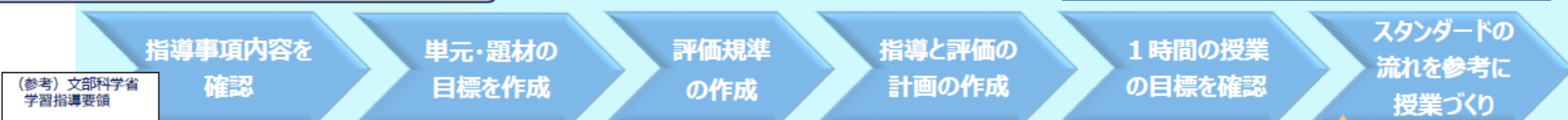


単元・題材を見通し、授業をつくる・つなぐ

目指すゴールの姿やゴールに向かう見通しなどを児童生徒と共有することが大切！

1時間の授業づくりに向けた単元・題材を見通す流れ（例）

（国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を元に作成）



（参考）文部科学省
学習指導要領



単元・題材の指導と評価の計画の作成においても、課題解決・探究的な学習をイメージした「やましろ授業スタンダード」の学習の流れを活用することができます。

次	時	ねらい・学習活動	学習評価
		学ぶ必然性のある問いや課題とのインパクトのある出会いをしかける 単元・題材の問いを見いだし課題を設定し、めあてをつかませる （児童生徒が興味・関心を持ち、自ら課題を設定することが、以後の主体的な学びにつながります。） ゴールの姿を共有し、解決への見通し・学習のプランニングさせる （自ら学びをマネジメントする力（自己調整する力）） 一人で挑戦させる（情報の収集、既習事項・経験の想起） 仲間と追究させる（情報の収集、交流） 仲間と深めさせる（整理・分析と深化） 問いや課題・めあてに対して、自分の言葉でまとめ、表現させる 目的・相手意識を明確にして学んだことをアウトプットさせる 単元・題材の学びを振り返り、自己の学び・自身の姿や成長・課題を解決するための学び方など自分を客観的に認識・自覚化させる ※児童生徒の実態や教科・学習課題のねらい・特性によって、順序を入れ替えたり、ある部分を焦点化・重点化したり、往還させたりする等、単元・題材の目標にせまるために計画することが大切です。	学習評価について 単元・題材の評価規準を具体化し、内容や時間のまとまりを見通しながら、適切な場面で評価を行うことが大切です。 「指導と評価の一体化」の観点から、児童生徒の学習改善、教師の指導改善につなげ、評価を見つめ直していくために、指導に生かす評価の機会と記録に残す評価の機会を精選し、位置付けることが大切です。

（参考）
国立教育政策研究所
「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料



（参考）
文部科学省
「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」



（参考）
文部科学省
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（イメージ）



※個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について、詳しくは文部科学省ホームページに掲載されています。単元・題材を通してイメージすることもできます。

学習課題を明らかにし、「ゴールを目指す」という目的（相手）意識のもとで、



何に気付かせたいのか



何を考えさせたいのか



何を学ばせたいのか

などを明確にし、

1時間の授業をつくる！

※学習指導要領では、資質・能力を育むためには、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が大切だと示されています。また、各教科等及び各学年相互間の関連を図り系統的、発展的な指導を行うことが必要です。（参考：学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編）

※総合的な学習の時間の単元構成、単元と評価の計画の作成の上での参考となります。



学習者（児童生徒）主体の学びの姿

- 意欲を喚起し探究心を持つ。
- 既習・体験したこととつなげて考える。
- 主体的に「問い」をつかむ、見いだす。

- 具体的なめあてをつかむ。
- 予想を立てる・方法を考える・見通しをもつ。
- めあての達成に向けて粘り強く取り組む意欲を高める。

- 資料等から必要な情報を収集・整理し、自分の考えを持つ。
- つまずきや未解決事項を自覚化し、協働的な学びで解決しようとする意欲を高める。

- 少人数・学級で考えを交流し共通点や相違点を明らかにする。
- 自分が考えた内容を整理する・より明らかにする・自信を持つ。
- 他者の考えの良さを見付け、自分の考えを広げる。

- 考えをつなげたり、異なる考えを出したり、新たな考えを生み出したりする。
- 納得解・最速解を見いだす。
- 自分の考えや他者の考えを関連付けてより深く理解する。
- 話し合いに有効なツールを活用する。

- めあてに対して解決したこと・分かったことを自分なりの言葉で表現する。
- 他者との交流で付け加え・修正する。

- 自分が得た学びを具体的に確認し、共有する。
（達成感や成就感、納得感を味わう）
- 自分自身の考えの変容や学びを得た過程（学び方）に気付く、自覚する。
- 学んだことを社会や生活、自分自身の経験・学びとつなげる。
- 自分を肯定的に捉える自己肯定感や、役に立った、認められたという自己有用感を高める。



学び合う学習集団づくりにつなげる教師の意図

- 気付き・疑問を促す、共有する。
- 既習の学習や生活経験等とつなげたことを評価する。
- 児童生徒の「見通し」を評価し、共有する。

- 自分の考えを持たせることに迫る。（中・長期的な目標）
- 分からない・途中まで考えを持つことができたことを、認める。
（協働的な学びを通して解決することをつかませる）

- 考え方を確かめ合わせ、認め合わせる。
- グループで見いだした新たな発想を評価する。
- 発言に対して、教師が価値付け・意味付けを行う。
- 友達の発言を受けた発言を評価する。
- 発言を復唱せず聞かせる、注目させる。
- 発言が途中で終わっても良い。その続きを友達に発言させる。

- めあてに対して分かったことを共有する。
- 授業でできるようになったこと、考えを持ち、広げ深めたことを評価し、共有する。
- 解決に至るプロセス・方法（協働的な学びを含む）を評価し、共有する。

発言をつなげ、学習集団づくりに意図した教師の声掛け（ファシリテーション）の例



「主体的・対話的で深い学び」

育み

支える

認め合い、励まし合い、支え合う
あたたかい学習集団・学び合う集団へ

お互いを認め合える集団

- 一人一人のよさやがんばりに気付くことができる。
- 話を最後まで聴くことができる。
- 多様な考えを認め、受け入れることができる。
- 自分と他者の類似点や相違点を交流しながら、考えを深めたり、価値を見出したり、さらなる新しい考えを生み出したりすることができる。

お互いを励まし合い、支え合う集団

- 分からないことを「分からない」と言うことができる。
- 教え合いや励まし合い等、「分からない」ことに全員で向き合い解決ができる。

（参考）
文部科学省
生徒指導提要（改訂版）
（令和4年12月）

教師が大切にしたい視点
教科の指導と生徒指導の一体化

（参考：生徒指導提要（改訂版））

自己存在感の感受を促進する授業づくり



- ・具体的に認める・評価する。
- ・価値付ける・意味付ける。

共感的な人間関係を育成する授業



- ・関心を持って（意見・考え）聴き合い、つなげる。
- ・他者の考えを認め合わせる。

自己決定の場を提供する授業づくり



- ・自分で見直しを持ち、考え、選択し、決定させる。
- ・児童生徒の学びを促す。

安心・安全な「居場所づくり」に配慮した授業



- ・児童生徒の個性が尊重され、自分らしく表現できる場・環境をつくる。